

海を渡る祭礼 (1941)

メディア 映画
ジャンル 時代劇
製作国 日本
色彩 B&W
時間 92分
初公開日 1941/05/04

【解説】

三村伸太郎のオリジナル脚本を「宮本武蔵」の稲垣浩が監督した時代劇。日本国内にはプリントもネガも残っておらず、現在見ることができるのは、ロシアで見つかった24分のフィルムのみとなっている。

港町に浅野屋という宿屋があり、美人の女中おうたが働いていた。祭りの季節には毎年、がまの油売り、猿回し、ねずみ取りなど、旅芸人や香具師たちが全国から集まってくる。祭りの前日、境内での地割が決まったときに現れた馬芸の一団が強引に縄張りをしたことから、祭りはトラブルに見舞われてしまう。おうたは見慣れぬ居合抜きの浪人・小布施羊太郎に心を惹かれていたが、羊太郎は馬芸の親分に呼び出され、どこかへ連れ去られてしまう。

【クレジット】

監督 稲垣浩
脚本 三村伸太郎
撮影 石本秀雄
音楽 西梧郎
出演 市川小文治 馬芸の頭虎鉄
市川春代 宿の女中おうた
深水藤子 旅の女おやす
大倉千代子 踊り子お雪
月宮乙女 宿の女中おかつ
衣笠淳子 宿の女中お松
滝のぼる 宿の女中おさき
戸上城太郎 小布施羊太郎
香川良介 板場の峰吉
志村喬 臺の油の源次兵衛
遠山満 宿の亭主嘉藤次
尾上華丈 女曲芸とり寅
団徳麿 猿廻しの与市
上田吉二郎 手品師の玄斎坊
村田宏寿 顔役の銀兵衛
石川秀道 勝ン平
瀬戸一司 板場の亥之
仁札功太郎 馬芸師斑
春日清 馬芸師小入道
浮田勝三郎 馬芸師竹虎
市川左正 馬芸師乗鞍

岬弦太郎	馬芸師悪七
大崎史郎	吹矢の三五郎
志茂山剛	とんころの忠助
楠英三郎	乾分伊八
小林三夫	板場の宇助
小池柳星	祭文語りの伝兵衛